

豊かな自然と 人が輝くまち紋別

みやかかわよしかず
もんべつ
紋別市長(北海道) **宮川良一**
Yoshikazu Miyakawa



自然豊かなオホーツク

紋別市は、オホーツク海のほぼ中央に位置し、豊かな自然に囲まれた人口約2万2000人のまちです。基幹産業は農林水産業で、サケ、ホタテ、カニなどオホーツク海の豊富な資源を生かした漁業、水産業や、毎日150t以上の生乳生産を誇る酪農業が盛んです。

近年は、この分野で、ベトナムやタイ、中国などからの技能実習生が増えていますので、さまざまな文化体験や、市民の方々との交流ができる拠点を開設し、この方々の紋別市での生活がより充実した



北海道遺産に登録されている「流氷とガリンコ号」

楽しいものとなるよう取り組みを進めています。

林業においては、環境に配慮した森林の持続的な循環利用による地域の森林・林業のブランド化、地域材のブランド化を目指し、緑の循環認証制度(SGEC)の認証取得に取り組み、本市を含めた流域市町村で約32万haの、日本最大の森林認証地帯を形成しています。平成28年12月には、林地未利用材を主燃料材とする紋別バイオマス発電所が営業運転を開始し、従業員の地元雇用をはじめ、市外からの転入者、地元企業が行う木材の集荷や燃料などの運搬業務等、広範囲にわたる仕事と雇用が創出されているほか、これまで延べ700名以上が施設見学に訪れ、交流人口の拡大にも貢献いただいています。

本市には、羽田空港から1時間50分程のフライトでお越しいただけるオホーツク紋別空港があり、空港から市街地までも車で10分程なので、大変便利です。夏は、冷涼な気候を生かしたスポーツ合宿の地として多くの大学や企業の方でにぎわい、冬は、流水砕氷船「ガリンコ号II」での流水体験に、国内のみならず海外からもたくさんのお客さまにお越しいただいています。流水は、年々減少傾向にあり、また、風向き次第で岸から離れてしまうため、見られるタイミングが難しいのですが、青い海が白い水で埋め尽くされる光景は、紋別で生まれ

育った私が何度見ても美しいと思う景色で、「ガリンコ号II」でガリガリと氷を砕いて進んでいくのは大変迫力があります。また、流水は良質なエサとなるプランクトンを運んでくるので海に恵みをもたらす存在でもあり、流水が去ったあとの海明けの毛ガニは格別に美味しいです。

Sea級グルメ全国大会 北海道一周・Sea級クルーズ開催

今年の8月25日(土)・26日(日)に、紋別港における過去最大イベントとなる「第11回Sea級グルメ全国大会」が開催されることとなりました。このイベントは、「み



紋別港での過去最大イベントとなる「Sea級グルメ全国大会」と「北海道一周・Sea級クルーズ」



市制施行60周年記念式典(平成26年)の演奏で指揮をふる筆者

など」を核とした住民参加による地域振興の取り組みが行われる施設として国土交通省に登録されている「みなとオアシス」の全国大会の一環として行われ、全国の「みなとオアシス」からSea(海)のものを使ったグルメが集まり、来場者の投票によりその年のNo.1が決まるものです。

また、このイベントに合わせ、紋別港をメイン寄港とする「北海道一周Sea級クルーズ」が行われます。このクルーズは、

双胴型大型高速フェリー「ナッチャンZoid」を使用し、函館、苫小牧、釧路、紋別、稚内、小樽を巡るもので、夜間に航行し、日中の各港寄港時には各地での観光や食事をお楽しみいただけるもので、乗船場所と下船場所のさまざまな組み合わせによるツアーや各寄港地での日帰りツアーの販売を行っています。

ぜひこの機会に、日本のおいしい海の幸や、北海道の魅力を満喫していただきたいと思しますので、全国のみなさんのお越しをお待ちしております。

吹奏楽への出会い

私の心の中にはいつも「音楽」があります。ふとしたときに自然とメロディーを口ずさんでしまうほど、そばにあるものです。「音楽」は、聴くことも歌うことも好きですが、かつては楽器の演奏もしていました。

兄がフルートを吹いていて、自分も楽器をやってみたくて思ったことがきっかけで、小学校5年生のときに、小学校の吹奏楽部に入部しクラリネットを始めました。それ以来、すっかり魅了され、中学、高校、大学と、吹奏楽漬けの学生時代を過ごしました。大学には吹奏楽部はなかったのですが、2年生のときに吹奏楽部をつくり、クラリネットの演奏のほかに指揮もしました。卒業後は、家業を継ぐため紋別市に戻

りましたが、当時、社会人バンドはなかったので、25歳のとき、高校時代の吹奏楽部のOBを中心とした14名で、「紋別吹奏楽団」を立ち上げました。練習場所を確保するのは苦労して、転々としていたことを昨日のことにように思い出しますが、楽団は今年で創立38年目を迎え、定期演奏会をはじめ、地域のイベントへの出演や市内の文化団体との合同公演等に取り組み、地域に愛される存在となっています。残念ながら私は演奏からは引退してしまいました。ですが、大学時代の後輩だった家内は今も現役で、一生続けられることも吹奏楽の魅力かもしれません。

吹奏楽を通じて、今あらためて感じることは、「出会い」への感謝の気持ちです。家内という人生の伴侶を得ることもなりましたし、一緒に吹奏楽に打ち込み、切磋琢磨^{せつさくたく}し、苦楽をともしたたくさんさんの仲間、私にとって一番の財産です。今でも、良き理解者であり、叱咤激励してくれる心強い存在です。

未来を担う紋別の子どもたちには、学業に限らず、音楽やスポーツなど、熱中できる何かを見つけ、思いっきりやってみてほしいと思います。市としても、高校の野球部、サッカー部への外部コーチの招聘^{しょうへい}などに取り組んでいます。これからも、この紋別で子どもたちが輝けるような環境づくりをすすめていきたいと思っています。